

「いきものみつけ」:コンセプト・シート

■名称およびキャッチフレーズ

いきものみつけ 100万人の温暖化しらべ

いきものみつけて、くらしを変える。 ～生物多様性からみた地球温暖化～

■本キャンペーンの趣旨

自然に恵まれた国土に生まれ育ち、元来、自然を愛するところをもった日本人。

その一方で、あまりに豊かな自然、季節のうつろい、生物多様性に囲まれてきたがゆえに、それらが失われ、損なわれていることへの危機感を

一人ひとりが「自分ごと」として共有できていないという現実にも直面しています。

「守ろう」という意思がなければ、もろく、弱く、あっという間に壊れてしまう

生物多様性の「リアルなありさま」について、いまこそ自分の身に引きよせて感じてもらいたい。

そして、あらためて、こうした日本独特のよさともいえる

「自然の声に耳を傾けること」、「日々の暮らしとのかかわりへの気づき」を促したい。

そのために、身近で、敷居が低く、だれもが気軽に楽しんで参加することができる、地球温暖化の影響しらべを兼ねたキャンペーンを展開したいと考えました。

むずかしいことは何もありません。

インターネットを活用し、最新の情報収集・解析システムを活用しながらも、

参加するみなさんは、じぶんの生活圏内にいる、身近ないきものを観察し、

その結果を、キャンペーンのホームページのカンタンなアンケートに書き込んでいただくだけ、

という非常にシンプルな方式を中心としています。

日本のあちこちで、いきもの声や姿を見つけることを通して、

もういちど私たちの生きているまちの、国の、地球のリアルな姿を感じていただきたい。

きっと、いきものや自然からの、ちいさなメッセージに気づくことができると思います。

ぜひ、ひとりでも多くの方々の参加をお待ちしています。

2008年5月

環境省 生物多様性センター

■なぜいま「生物多様性」なのか？

IPCC(気候変動に関する政府間パネル: Intergovernmental Panel on Climate Change)によれば、もはや地球温暖化は疑う余地がないという報告がなされており、すでに生物にも影響が出ていると言われています。

地球温暖化の危機が叫ばれる昨今、「温暖化」による気温や海面の上昇といった現象に注目が集まっていますが、

実は「温暖化によって生物多様性が失われること」も私たちの暮らしに深刻な影響を及ぼします。

地球上にはさまざまな生物がつながりあって暮らしており、私たちの生活もその恵みに支えられているのです。

私たちは温暖化問題のその先に、「失われゆく生物多様性」を見据える時期に来ていると考えます。

2007年11月には、生物多様性条約に基づいて、生物多様性の保全と持続可能な利用に関わる国の施策の目標と取組の方向を定めた「**第3次生物多様性国家戦略**」※1が閣議決定されました。

また、2010年は国連の「国際生物多様性年」であり、日本は、この年に予定されている、「**生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)**」※2について、愛知県名古屋市での開催に向けて立候補していることもあり、あらためて「生物多様性」の重要性に注目が集まっている時期だといえます。

豊かな自然を守るためには「温暖化の防止」だけでなく、「生物多様性」を知り、守ることが大切です。

そのためにはまず、これらの実態について「自分ごと」として意識する必要があると思うのです。

※1 <http://www.env.go.jp/nature/biodic/nbsap3/>

※2 <http://www.cop10.jp/aichi-nagoya/>(地元誘致委員会のページ)

<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=9445>(環境省報道資料)

■参加してもらいたいのは、こんな人たち

自然愛好家から、ごく一般的な、あまり関心のない人にいたるまで、あらゆる人たちを想定しています。

興味のある人はよりいっそう。そうでない人もそれなりに、自分なりに。

気候変動や温暖化の実態を自分ごととして感じてもらいたいと考えています。

大切なのは、身近なエピソードやいきものを見つけ、彼らの声を聞き、自分たちの暮らしを考えること。

特別な準備も知識もいりません。ひとりでも多くの方に参加していただけることがいちばん大事です。

■実施概要

概要:

- **いきものみつけ:** 私たちの暮らしに身近ないきものや自然に関する現象などをピックアップし、それらがみつかった時期や場所などの情報をインターネットや携帯電話、郵便、FAXを介して集めます。
 - * 調査対象となるいきものは、できるだけ日本全国どこからでも参加できるよう、また季節やわかりやすさなどを考慮したうえで選びました(一部、自然愛好家に向けて難易度の高いいきものも対象に加えています)。
 - * 集まった情報は、可能な限りWebサイト上でリアルタイムにビジュアルに発信していきます。
 - * 過去の情報と比較することで、温暖化によるいきものへの影響をわかりやすく示します。

■平成 20 年度の調査対象事象

	夏	秋	冬	春
一般向け	ミンミンゼミの鳴き声が聞こえた日	ヒガンバナの開花日	初氷の観察日	ウグイスの初鳴き日
	ツクツクボウシの鳴き声が聞こえた日	イチョウの黄葉日		フキノトウの初見日
自然愛好家向け	クマゼミの鳴き声が聞こえた日	ススキの出穂日	マガンの初見日 ジョウビタキの初見日	モンシロチョウの初見日

- **温暖化意識しらべ:** 実際にどれくらいのひとが身近なところで何に温暖化を感じているかの実態調査を行います。
 - * 温暖化を感じるできごとや身近ないきもの、気候、生活などに関してアンケートを行い、住んでいる地域や年齢、性別、季節などにより、温暖化に対する意識の違いを分析します。
 - * 自由回答欄を設けることで、個人的な体験や気づきのエピソードを集めて公開・共有し、「自分ごと」として意識することをねらいます。

期間:平成 20 年7月1日～平成21年6月末

(平成21年度夏季調査以降の計画については、検討中です。)

参加対象:

日本国内在住者

想定参加者はのべ 100 万人。一般参加者(特に自然への関心が高くないひとたち)と、自然愛好家(専門的な知識やスキルのあるひとたち、団体など)とで調査するいきものを分け、立体的な調査をめざします。

参加方法:

いきものや自然に興味のある方もない方も誰でも気軽に参加できます。

参加方法は、いきものみつけオフィシャルサイトへアクセスして下さい。携帯電話からも参加可能です。また、インターネットや携帯電話の環境を持っていない方は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。(オフィシャルサイト及び携帯サイトは、7月1日より開設します。5月21日から6月末までは、告知サイトをご覧ください。)

■告知サイト <http://www.env.go.jp/nature/mikke/index.html>

■オフィシャルサイト <http://www.mikke.go.jp>

■お問い合わせ

- ・取材、企画内容に関するお問い合わせ

〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田剣丸尾5597-1

環境省生物多様性センター

TEL:0555-72-6033

FAX:0555-72-6035

- ・「いきものみつけ」への参加に関するお問い合わせ

〒106-0041 東京都港区麻布台1-11-9ダヴィンチ神谷町

全国地球温暖化防止活動推進センター内「いきものみつけ」事務局

TEL:03-3568-4131

FAX:03-3568-4132

E-mail:info@mikke.go.jp